

丹波古文書倶楽部会報
古文書かわら版

第8号

事務連絡（高礼場）

☆ 三月例会の会場変更

3月11日（土）午前10時
春日住民センター大会議室で
す、お間違えないように。

会場準備係（敬称略）
久保小枝子 川原邦弘 桜井三枝子

☆ 平成28年度総会

三月例会に引き続き開催
28年度の事業・決算報告、29
年度の事業計画・予算案の他、
役員体制についての協議も含ま
れ、会の最高意思決定、並びに
会員からの要望・意見を交換す
る機会です。短時間でを行う予定
です。是非、「ご参加ください」。

☆ 四月例会

日時 4月8日（土）

午前10時

会場 柏原住民センター

会場準備は新役員で行います。
29年度最初の例会です。新入会
員の紹介もあります。継続会員
の皆様も心機一転、古文書の学
びに向き合ってください。

発行者 川口丹波守利和
編集者 延陽伯こと岸孝明
発行所 丹波古文書倶楽部

☆ 生涯学習市民活動実践グループ

シンポジウム2017開催

日時 2月11日（土）本日

午後一時半～四時半

会場 柏原住民センター

内容

開会あいさつ（川口代表）

講演会（1時40分～2時40分）

講師 萬浪 佳隆氏

パネルディスカッション

パネラーに当会の川口代表も、

参加料（資料代）一人300円

受付 展示業務等のボランティア

の皆さん「苦勞様です」。

☆ 平成29年度古文書倶楽部

新規会員募集へ切迫る。

左記要領にて、募集締め切りが
迫っています。お友達知人等で、古
文書に興味関心を持たれている方
にお伝えして、ともに古文書を学
ぶ仲間を増してください。

・ 申込方法

各住民センター備付けの申込

書、または電話連絡等（氏名住所・

電話番号）により、当倶楽部役員宛

お申し込みください。

・ 申込切

平成29年2月15日（水）

・ 募集人数 200名程度

・ 講師
神戸大学大学院人文学研究科特
命講師 木村 修二氏
・ 年会費（予定） 5,000円
・ 申込問合せ先電話番号
080-53651-23001

丹波古文書倶楽部代表 川口利和

☆ 丹波市教委文化財課より依頼

丹波市立柏原歴史民俗資料館

「三二企画展 「上山家文書に見

る幕末維新の丹波」

2月28日～3月20日まで

旧水上郡大新屋村・鴨野村・稻

継村を領した旗本佐野家の在地

代官上山家に伝わる文書の展示

記念講演 「上山家文書に見る

幕末維新の丹波」

3月4日（土）13時30分

講師 前田結城氏（神戸大学大

学院人文学研究科非常勤講師）

講演会は申込み不要で、先着50

名に『上山治郎右衛門幕末用状

控帳』の冊子版を贈呈する

詳しくは、配布チラシ参照

自己紹介（口よ）

◆ 三田市 園田 恭子様

古文書で楽しい！

これは無理！ 聞いていけな

いな……、初めて受講した日の

私の思いです。区切りも分から

ない漢字ばかりの文章、その上
輪番指名もあると聞き不安に
なったのを覚えています。

本会へは、昔お世話になった
八木甫瑛子先生のご紹介で入れ
て頂きました。先生と三十年ぶ
りに再会を果たした二年前の事
です。ちよつと宝塚の書道教室
で草書や変体仮名を学んでいた
頃で、昔の文書を見てみたい、と
思い始めた時期だったので、す
ぐに入会を決めました。

しかしいざ入ってみると予想
とは全く異なる、難解な文に戸
惑う日々となったのです。

それでも木村先生が最初に教
えてくださった 予習は必須だ
が復習も大切」 古文書も日本
語」のお言葉に励まされながら
地道に学習を重ねてきました。

おかげで最近では自分でも、
少し読めるようになってきた、
と感じています。また、多少な
りとも意味を考えながら楽し
んで読む余裕が出てきたように
も思います。

これらはひとえに、強い意志
を持つてきこひりとして指導くだ
さる木村先生、スムーズに会を
運営して下さる役員の皆様、
また、尋ねると親切に教えてく
ださる方々のおかげです。
(第2頁へ続く)

ださる会員の皆様のおかげで心よりの感謝しています。ありがとうございます。これからもうすぐで宜しくお願ひいたします。

◆ 柏原町 村上 草子様
古文書倶楽部に入会して

この古文書倶楽部に入会したのは、以前資料館に勤めていた時に、歴史や古文書についていろいろ教えてくださった方がおられ、その方がこの古文書倶楽部に入会されており、誘っていただいたことがきっかけです。

今の仕事でも古文書を見る機会がたまにあるので、少しでも読めるようになればと思っておりますが、なかなか簡単には読めません。毎回、読みの順番が回ってくるときは、予習で比較的読めたところが順番で当たるようにと願ひながら参加をしています。

また、フィールドワークにも何度か参加させていただきました。私は柏原に住んでいます。丹波市となって十年ちよつと、市内でも自分の住んでいる町以外では、ほとんど行くことがない地域もあります。こういったフィールド

ルドワークの機会でなければ行くことがない場所もあるのでいい機会だと思つています。今後でもできれば、参加したいと思ひますし、古文書ももっと読めるようになりたいと思ひます。

話題提供（耳袋）

◎ 第15回歴史文化をめぐる地域連携協議会に参加して

1月29日(日)11時～17時まで神戸大学滝川記念学術交流館で歴史文化をめぐる場々をテーマに開催された研究会に丹波古文書倶楽部から、川口さん、小西さん、山崎さん、桜井さん、岸の5名が参加しました。



丹波市からは市島史実研究会から青木さん、山内さん、などが参加され、展示ブースでは成果物の販売もされました。

また、氷上古文書同好会の皆さん方も参加され、午前の部で活動報告をされました。

我が丹波古文書倶楽部の木村修二先生がこの研究会のテーマについて、基調報告をされ、司会も務めるなど、会の運営に大活躍されている姿を見て、頼もしく、誇らしく思いました。

紙面の都合で、会の設定趣旨や5団体からの活動発表の具体、地域連携センターからの3本の研究発表などの詳細は、持ち帰った資料がありますので、見て頂いたらと思ひます。また多分、地域連携センターから出されるであろう報告書を見て頂くのが一番だと思ひます。

第一に驚いたことは、参加者が総勢一〇〇名を超えるとともに、遠く仙台や長野県、県下各地は言うに及ばず、近畿一円から、それぞれので、また、各地の大学で活躍されている人々がはせ参じておられた事です。

神戸大学が、人材育成の会場として、知の開発と蓄積の会場として、人材供給の会場として、地域で活動している者に対して素晴らしい貢献をされており、それだけに大きな求心力を持つておられることに、改めて感心しました。

第二に、歴史文化をめぐる質の

高い情報が沢山得られた事が何よりもうれしい事でした。また、他の団体等の活動からたくさん示唆を与えられたことも大きな成果でした。遠くへ時間もかかりますが、多くの収穫を得られるので機会があれば皆さん方も是非、参加されるべきだ、と感じました。

第三に、展示ブースには、活動発表された朝来市、三木市などと並んで尼崎市や高砂市、西宮市に伍して市島史実研究会も成果物の販売をされており、とてもうらやましく感じました。

最後に、全く場違いな個人的感想を書くことを許してください。それは、木村先生の活躍を目にして、普段、我々のために月一回ほぼ一日かけて大阪から教えに来て頂いているのに、我々の側から、何のお手伝いも成果物も提供できていないという心苦しさです。

もう一つは、展示ブースでたくさんさんの成果物を戴きましたが、丹波古文書倶楽部としての成果物を何一つお返しできなかったという寂しさでした。

会の独自の研究成果でなくとも、会員の自主的グループでも、個人の研究成果でもいいから、丹波古文書倶楽部の研究誌が発行出来ないものか、と思ひました。

(文責 岸 孝明)